

Governance

健全な経営基盤の確立

企業倫理・コンプライアンス

安全衛生

品質・製品安全

情報セキュリティ

AIガバナンス

リスクマネジメント

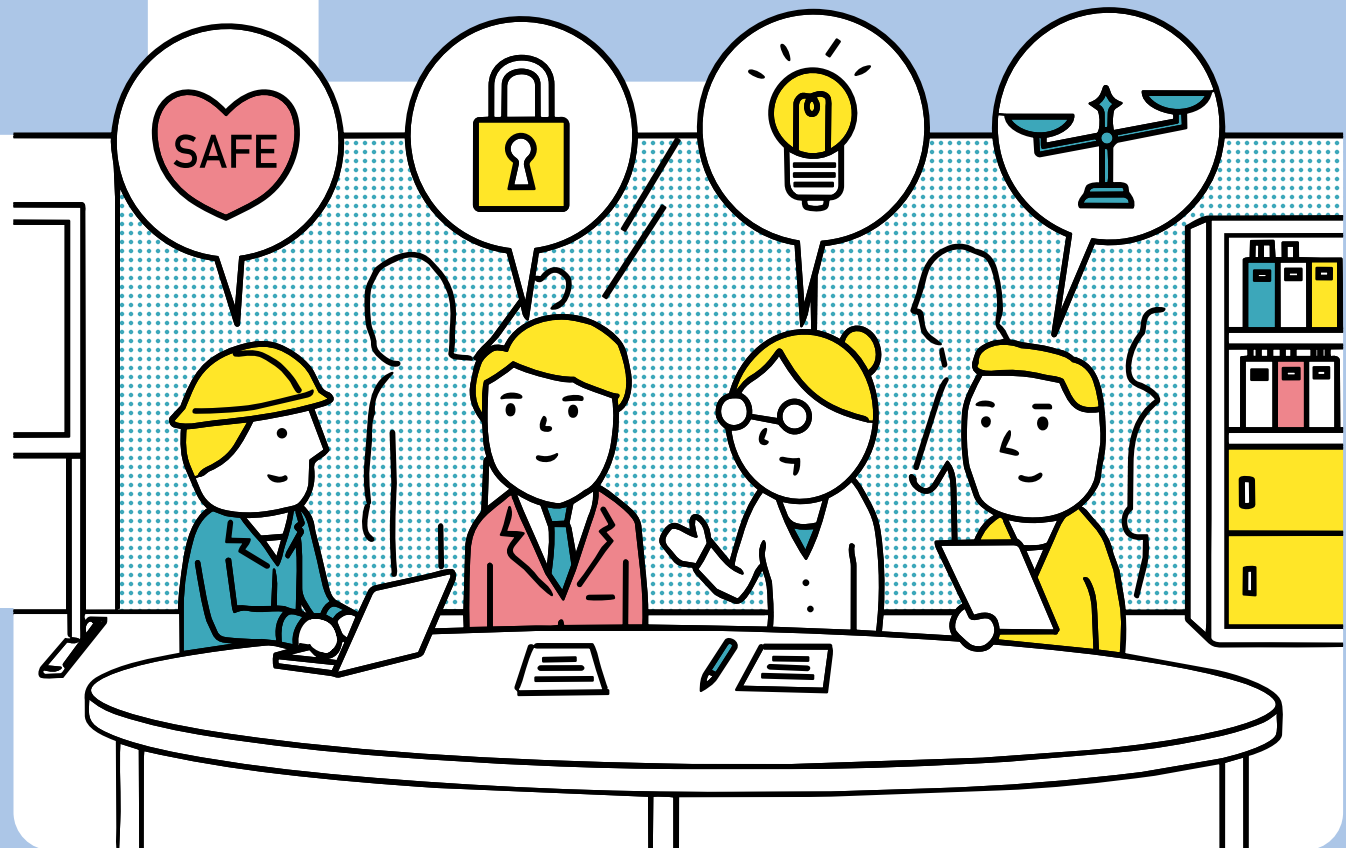
人権

デジタルプラットフォーム

サステナブル調達

イノベーションの創出

Engagement



健全な経営基盤の確立は、企業の持続的成長に不可欠です。

日立ハイテクグループは、長期的に企業価値を向上させていくために、

ガバナンスを強化し、リスクマネジメントの高度化とバリューチェーンにおける人権の尊重に努めます。

また、事業の加速に向け、新技術とデジタルツールを業務に活用するとともに、

イノベーション創出の源泉となる、自社技術の革新と発想の展開に取り組みます。

社会から信頼され、必要とされ、社会に良い影響を与える企業であり続けます。

Special contents 設計×知財

持続可能な医療提供体制を支える 小型装置の開発

医療需要が高まる一方、検査を担う人財の不足は、国内外の医療現場が抱える課題の一つとなっています。特に中小規模の病院や地域医療の現場では、限られた人員とスペースの中で、より多くの検査を迅速かつ正確に行うことが求められています。こうした課題の解決は、医療従事者の負担軽減だけでなく、検査結果の迅速な提供や診断・治療までの時間短縮につながり、必要な医療を必要な人へ届けるためにも重要です。

こうした医療現場のニーズに応えるため、日立ハイテクはロシュとの協創を通じて、生化学・免疫統合型自動分析装置「コバス pure」を開発しました。この装置を構成する生化学モジュール「cobas c 303」は、従来機種と比べて約1.5倍の処理速度を実現。その中核技術である、反応ディスクの動きを最適化する制御技術は、設計部門と知的財産部門が開発の初期段階から緊密に連携しながら権利化を進め、日立グループ全体の特許に関する表彰で上位の賞にもつながりました。今後も現場のニーズに根差した技術開発と知財活動でイノベーションを創出し、持続可能な医療提供体制を支えていきます。



医用システム第三設計部
安居 さん

知的財産部
大谷 さん

コバス pure の設計&知財担当に聞きました！

——担当業務を教えてください。

安居 「コバス pure」に携わっていた当時は、生化学モジュール「cobas c 303」のシステム構築や基本コンセプトの策定、ハードウェアのレイアウト設計などを任されていました。

大谷 私は入社以来、知的財産部に所属しており、医用製品担当としてコバス pure の知財業務全般に関わりました。構想のかなり早い段階から特許取得まで、一気通貫して担当しました。



cobas c 303

©2026 F. Hoffmann-La Roche Ltd.

——開発への思いを聞かせてください。

安居 従来機種と比べて約1.5倍の処理速度を実現するという目標がありました。実現したい動きを数式化して表現してみたことが転機となりました。最終的に処理能力の向上と測定精度を両立させることができました。現場の課題を深く捉え、工夫を重ねた技術が高く評価されたことは、開発に携わった者として大きな意味がありました。

大谷 今回特許を取得した技術は、製品コンセプトの中核をなすものであったため、設計部との密な連携は欠かせませんでした。「従来技術と何が違うのか」「この動きによって何が可能になったのか」を何度も話し合いました。若い設計者が自分のアイデアに自信を持って挑戦し、その成果を社会に届けられるよう、知財の立場から精一杯サポートしていきたいです。

——あなたのMy PLEDGESは？

安居 私のMy PLEDGESは「ワークフローを改善し、医療・検査の価値を高める」です。エンジニアの立場から、医療現場や検査室の時代に合わせた要求に的確に応え、ワークフローを改善する新たな技術を生み出し続けることで、社会における医療・検査の価値向上に貢献していきたいと考えています。

大谷 私のMy PLEDGESは「技術の可能性をIPの力で社会の価値へ」です。技術を法的に守るだけでなく、その技術が社会やお客さまに対してどのような課題を解決し、最大の価値を生み出し続けられるかを見極め、引き出していくことが知財の使命だと考えています。

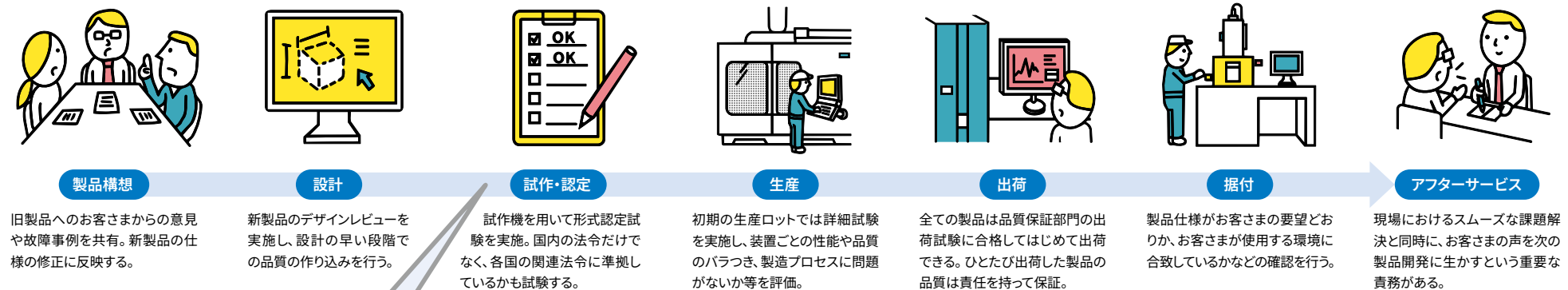


お客さまの信頼に応える品質保証

日立ハイテックグループは、「Safety >> Quality > Delivery > Cost (S>>Q>D>C)」の考え方のもと、安全と品質を全てに優先しています。品質保証部門は設計・製造部門から独立した立場で製品・サービスの品質を評価し、お客さまへ安心してお使いいただける製品を提供しています。開発・設計段階から出荷後のアフターサービスまで、一貫した品質保証活動を通じて、お客さまの信頼と社会の安全に貢献しています。

製品開発の流れと品質保証

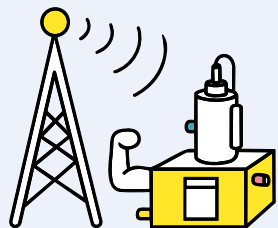
品質は最終検査だけで確保されるものではありません。日立ハイテックでは、製品構想、設計、試作・認定、生産、出荷、据付、アフターサービスまでの全工程で品質を追求しています。品質保証部門は各段階で品質レビューを実施し、法令・規格への適合性や製品安全を確認しています。



Pick up 各国の法規制への適合を確認する「信頼性評価」

信頼性評価設備は、新製品の試作・認定段階において、温度・湿度、振動、電磁波、気圧など世界各地の使用環境を再現し、安全性・信頼性・法規制適合性を評価するために活用されています。

EMC試験



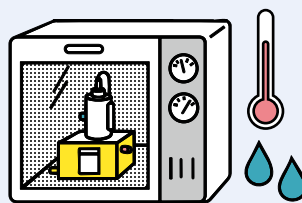
正しく動作するには、電磁波による誤作動を防ぐことが不可欠。EUのCEマーキングや米国FCCなど各国の規制に準拠したEMC(電磁両立性)試験を電波暗室にて実施し、世界市場で求められる安全性・信頼性を確認しています。

減圧試験



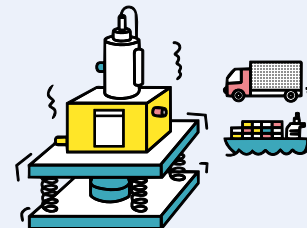
高地などの低気圧環境では、製品内部の部品や配管、電子機器に通常とは異なる負荷がかかります。実際の低気圧環境を再現し、製品が安全かつ正常に動作することを確認します。

恒温恒湿環境試験



高温・低温、高湿度・低湿度などの環境条件を再現する恒温恒湿室で、医用・パイオ製品や評価解析製品の環境試験を実施します。那珂地区では、大形恒温恒湿室8機および超大形恒温恒湿室1機を保有しています。

振動試験



製品は輸送中のトラックや船舶、設置後の運転環境などでさまざまな振動を受けます。振動試験設備でそれらの環境を模擬し、機械構造や電子部品に異常が発生しないことを確認します。

寿命試験

製品やユニットを長時間稼働させ、耐久性や経年劣化を評価します。市場で長期間使用されることを想定し、部品の摩耗や性能変化を事前に把握することで、故障の未然防止や保守計画の最適化につなげています。

燃焼試験

発煙事故や発火事故などの再現試験を実施します。実際の事故現象を再現し、原因究明や再発防止策の有効性を検証しています。

事例

責任あるAI活用の推進

日立ハイテクグループでは、生成AIをはじめとするAI技術の活用を推進するとともに、適切な利用に向けたAIガバナンスの強化に取り組んでいます。AI倫理委員会を設置し、日立AI倫理原則に基づくルール整備やリスク管理、教育・啓発活動を推進しています。

併せて、生成AI活用委員会などから活用事例の共有や教育セミナーを実施し、安全かつ効果的なAI活用を推進しています。活用促進とガバナンス強化を両輪で進めることで、信頼されるAI活用と持続的な価値創造の実現をめざしています。



社員体験型セミナーの様子

9年連続で「健康経営優良法人(大規模法人部門)」に認定

日立ハイテクは、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に9年連続で認定されました。また、日立ハイテクグループとしては、5年連続で全ての国内グループ会社(持分法適用会社を除く)が「健康経営優良法人」に認定され、日立ハイテクフィールドディングは上位500法人に与えられる「ホワイト500」に認定されています。

今回の認定では、健康経営を意識した管理職による組織改革と各職場への浸透に向けた取り組みに加え、従業員の心身の健康を支える施策が評価されました。引き続き、健康診断の傾向やストレスチェックの結果等を踏まえ、従業員の健康課題に応じた取り組みを進めていきます。

当社グループは今後も、従業員一人ひとりが健康で安全に、いきいきと活躍できる職場環境を整え、多様な人材の力を生かしながら、新たな価値の創出と「ハーモナイズドソサエティ」の実現に貢献していきます。

EcoVadis社のサステナビリティ評価で
上位5%の「ゴールド」を2年連続で獲得

日立ハイテクは、国際的なサステナビリティ評価機関であるEcoVadis社の評価において、対象企業の上位5%に与えられる「ゴールド」評価を2年連続で獲得しました。

EcoVadis社は、世界185カ国、250業種、15万社以上の企業・団体を対象に、「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資源調達」の4分野からサステナビリティへの取り組みを評価しています。今回、当社は、温室効果ガス排出削減への

取り組みや労働・人権への配慮、企業倫理の徹底など、地域社会や地球環境に配慮した責任ある事業活動を推進していることが高く評価されました。

当社は今後も、お客さまやパートナー企業をはじめとするステークホルダーとの協創を通じて、バリューチェーン全体での社会課題の解決と持続可能な社会の実現に貢献していきます。



各製造拠点において取引先説明会を開催

調達パートナーへの情報発信と相互コミュニケーションによるCSR意識の共有は不可欠なものであるため、自社製品製造部門の調達品パートナー企業を対象に定期的な説明会を開催しています。当社の各製造拠点にて、年2回、日立グループ全体の「グリーン調達活動の推進」「サプライチェーンCSR推進活動」の取り組みを説明しています。当社グループの方針・考え方については、(株)日立製作所が発行する「日立グループ サステナブル調達ガイドライン」を調達パートナーに遵守いただきたい行動規範として位置付け、同ガイドラインに基づいた社会的責任(倫理行動・人権配慮・労働慣行・環境問題・品質・安全等)についての説明を行い、調達パートナーとの検証と相互理解を深め、CSR調達活動を推進しています。

グリーン調達活動については、取引先説明会の場で調達パートナーへ日立グループ環境ビジョン・方針に沿って「地球温暖化の防止」、「資源の循環的な利用」、「生態系の保全」の具体的な活動を要請し、調達パートナーと協働で社会的責任を遂行する仕組みづくりを進めています。



取引先説明会(那珂地区)